

ISSN 0385-7476
SSK

172
2001
March



その研究と情報

1 特集◎

視覚障害者の日常生活訓練の 現状と課題

—裁縫指導の実態から— 石黒清子

12 ルポ◎

音声誘導装置が拓く歩行の未来 和田 勉

28 視覚障害情報処理技術 (2000年)

67 インフォメーション・コーナー

視力のよわい方・お年寄りの方の読書に朗報!

モニター・カメラ分離式
簡易型書字兼用の

拡大読書器

●読みやすい●書きやすい●使いやすい かくだい君®



カラー読書器TOP-C02型

TOP-C02型の特長

- ビント合わせと拡大倍率は一本の操作棒で調節できますので、楽な姿勢で読み書きができます。
- 拡大画像の高倍率化“39.5倍”を実現しました。(21型モニターにて)。
- 広く・堅牢な資料台を採用しました。
- 資料用照明のまぶしさをなくしました。
- 21型(20kg)迄のモニター搭載が可能です。

価格

TOP-C02型 (モニター別売)

¥198,000

(お手持ちのビデオ入力端子付きカラーテレビをモニターとして利用できます)



白黒読書器TOP-01型

TOP-01型の特長

- ビント合わせと拡大倍率は一本の操作棒で調節できますので、楽な姿勢で読み書きができます。
- 拡大画像の高倍率化“32倍”を実現しました。(17型モニターにて)。
- 広く・堅牢な資料台を採用しました。
- 資料用照明のまぶしさをなくしました。
- 21型(20kg)迄のモニター搭載が可能です。

価格

TOP-01型 (14型テレビ付)

¥198,000

TOP-01型 (17型専用モニター付)

¥250,000

- 視覚障害者用拡大読書器には消費税がかかりません。
- 「日常生活用具」認定品として、補助金支給の制度があります。

製造・販売(東日本地区)

株式会社



電話 (03) 3263-3921 (代)

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-10-1 福祉機器担当

代理店(西日本地区)

三興機電株式会社 電話 (06) 6305-5031 (代)

〒532-0012 大阪市淀川区木川東3-4-18 中村第2ビル

視覚障害者の日常生活訓練の現状と課題 — 裁縫指導の実態から —

荒川区高齢者保健福祉課

(元荒川区心身障害者福祉センター) 石黒 清子

I はじめに

近年の社会状況の大幅な変化、価値観の多様化が進むなかで、視覚障害者のリハビリテーションにおいて、社会参加や生活の基本を担う生活訓練も変化を求められている。

視覚障害者の重度・重複化、高齢化が進み、これまでの職業リハビリテーションを前提とした歩行・コミュニケーション技術などの習得だけでなく、在宅生活の充実・生きがいのための方策が重要と認識され、日常生活訓練の果たす役割は増大している。

一方で、ヘルパー派遣などの社会的支援体制の充実などから、家事動作の自立に対するニーズの低下は顕著であり、生きていくために必要な技術に関わる日常生活訓練の内容は縮小傾向にある。指導者もニーズの低さを理由に能力の有無にかかわらず、訓練の提供に消極的な姿勢を示す者も少なくない。

しかし、社会の変化によって家事動作等の生活技術としての位置づけは低下しても、生きがいに通じる趣味の技術は、日常生活訓練として提供する必要性が高まっている。その典型が「裁縫」である。

今回は、視覚障害生活訓練における「日常生活訓練・指導」および「裁縫指導」の実施状況を調査して日常生活訓練の課題を整理し、今後のあり方を探る一助としたい。

II 視覚障害リハビリテーションにおける 日常生活訓練の変遷と現状

トーマス・キャロルが著書『失明』のなかで「視覚障害者の20の喪失」の一つとして「日常生活技術の喪失」をあげているように、視覚障害者の日常生活能力回復の必要性は明らかであり、現在も生活訓練の主要な柱の一つとして位置づけられている。

我が国の日常生活訓練は、昭和51年から15年間にわたって活動した「元視覚障害者日常生活訓練研究会」によって体系化された。同会は、指導書の発行、研究大会や指導技術研修会等を開催して指導技術の研鑽・標準化に努めてきたが、平成2年、視覚障害リハビリテーション協会の設立に伴い、解散した。

現在、生活訓練の指導技術は、国立身体障害者リハビリテーション学院や日本ライトハウスなどの視覚障害リハビリテーション指導者養成課程の中で教授されている。しかし、歩行訓練等に比べると、日常生活訓練の時間数は非常に少なく、演習内容なども限定されているため、受講生の中には、日常生活訓練指導技術に自信を持ってないでいる者も少なくない。

総合的な生活訓練指導者の養成を目的としたこれらの養成課程の充実に伴い、各生活訓練施設でも、それまでの単一訓練専門指導体制から、複数訓練担当制に移行し、日常生活訓練を専任で行っている施設が減少している。

専任指導者の減少もあって、ここ数年来、日常生活訓練指導に関する研究発表が視覚障害リハビリテーション大会等においてほとんど見られないなど、日常生活訓練指導は全体的に低迷しているといえる。

Ⅲ 日常生活訓練の実態調査

〔目的と方法〕

日常生活訓練の実施状況の把握を目的として、全国の生活訓練施設のうち、元視覚障害者日常生活訓練研究会参加施設を中心として

26施設の日常生活訓練担当者に質問紙を送り、2年間の実態について調査を依頼した。

〔調査内容〕

- ・施設種別 ・利用形態 ・担当訓練 ・研究発表実績
- ・訓練プログラムの作成方法 ・項目別実施状況
- ・ボランティア活用状況 ・指導が難しい訓練内容
- ・取り入れたい訓練内容 ・自由記載

〔結果〕

15施設29名の日常生活訓練担当者より回答を得た。

「日常生活訓練」の範囲は、施設によって様々であり、項目の相違などから回答を得られなかった施設もあった。

施設種別	国立施設	民間施設	地域センター	計
数	3	7	5	15
%	20	47	33	100

1 施設種別（表1）

形態	入所	入所 通所	通所 訪問	訪問	入所 通所 訪問	計
数	2	5	3	2	3	15
%	13	34	20	13	20	100

2 利用形態（表2）

3 担当している訓練

29名の回答者のうち日常生活訓練を専任としている者は4名のみで、25名は他の訓練を兼ねている。

各施設の日常生活訓練担当者配置数は1～5名である。

4 日常生活訓練に関する研究発表実績

(1)「糖尿病を併せ持つ視覚障害者の単身生活に向けた支援に

ついて」

(2)「生活訓練終了者およびその家族に対する生活実態調査報告」

(3)「盲人用ミシンについて」

5 訓練プログラムの作成・選択方法

訓練プログラムは「訓練生のニーズと指導者の評価を合わせて作成している」が9名、「訓練生のニーズによる」が5名、「訓練生のニーズと指導者の評価、決まっていることの提案の全てによる」が2名である。無回答が13名と多くなったのは、調査方法の不備によるものである。

6 訓練実施状況

元視覚障害日常生活訓練研究会著「視覚障害者の日常生活訓練」に示されている訓練内容67項目(表3)について、過去2年間の実施状況と未実施の場合の理由を尋ね、以下の回答を得た。

(1)全施設で実施している項目は、基礎指導(日常生活訓練場面に限らず、随時実施)「食事喫茶動作」「金銭弁別・管理」「電話の使用」「掃除」「収納・整理」「糸通し」「ボタンつけ」「包丁操作」「熱源操作」「お茶入れ」「電子レンジの利用」「金融機関の利用」「情報収集」である。

(2)ほとんどの施設でハンドライティングはコミュニケーション訓練、買物は歩行訓練の一環として実施している。

(3)最も実施状況が低かったのは「育児」で、「対象者がいない」という理由が多い。

(4)ついで実施状況の低い項目は「編物・手芸、ミシン」で、その理由は「日常生活訓練としては考えにくい」「要望がない」「時間がない」「物がない」「指導できない」などとなっている。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編 集 後 記

永遠に続く時間の流れ。これに対し人は、様々な単位を与え、それによってけじめをつけ、生活の単調化、怠惰を防いでいます。21世紀を迎え、この年を大きな節目にしようと考えている人も少なくないことでしょう。

既に「次年度購読継続のお願い」でご案内したように、新世紀の幕開けを機に、本誌は次号から新たな歩みを始めます。私は1988年から編集作業に加わるようになり、93年7月から編集人を務めてまいりましたが、本号を最後に退きます。この間、企画・編集作業を進める中で多くの方々にお会いすることができ、そこから数え切れないほどのことを学びました。それらは、私の未来を変えさせるきっかけになったとも言えます。改めて本誌に対してご支援・ご協力を賜りましたこと、心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。

(立花明彦)

視 覚 障 害 2001年3月 No.172

年間購読料 4,200円 (送料とも)

発行日 2001年3月1日

編集人 立花 明彦

(連絡先) 日本盲人福祉研究会 (文月会)

〒167-0043 東京都杉並区上荻2丁目37番10号
Keiビル3階

電話 (03)5310-5051 (代)

FAX (03)5310-5053

<http://www.normanet.ne.jp/~fumizuki/>

振替口座 00160-4-16103

発行人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21

印刷所 株式会社 大活字

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-1-9

電話(03)5282-4361